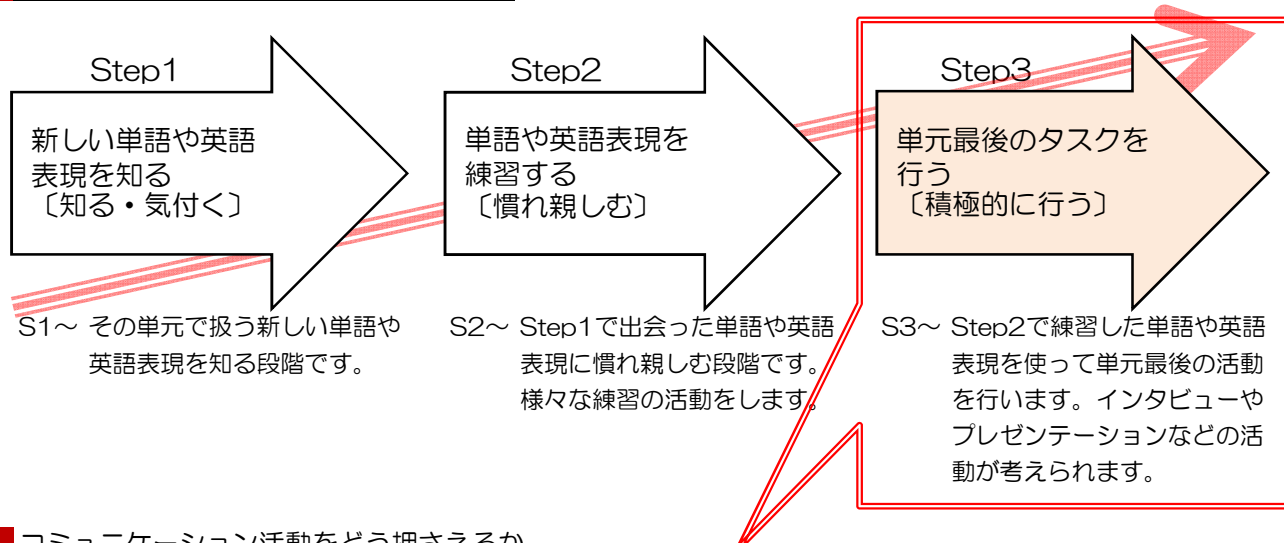




一単元最後のタスク（コミュニケーション活動）を充実させるー

外国語活動充実のためのポイント、七つ目は「単語最後のタスク（コミュニケーション活動）を充実させること」です。
前段階で十分に慣れ親しんだ英語表現を使って行う、単元最後のタスク（コミュニケーション活動）の充実です。
「基本の3ステップ」を再確認した上で、「単元をどう仕上げるか」を考えてみてください。

単元全体の考え方（基本の3ステップ）



コミュニケーション活動をどう押さえるか

外国語活動の目標が「単に英語を話すことではない」理由がここにあります。
Step2の活動自体にはアイデアもあり、どんなにいい活動をしていても、「それで終わり」ではとても残念です。
単元最後のコミュニケーション活動では、意味のある内容を積極的に伝え合う、そんな活動を仕組みたいものです。
以前、室蘭市教育研究所の公開講座で私は、外国語活動のコミュニケーション活動について、「『自分自身に関わることを、自分自身が選んだ言葉で、積極的に伝え合う活動』と考えます」と述べました。
私が指導する際はこのことを頭に置き、まず最終のコミュニケーション活動をイメージします。
そして、そのためにどんな布石を打つか、どんなステップを踏みながら到達させるかを考えます。その上で単元の指導をスタートさせます。
「外国語活動において単元の構想をたてる」とはそういうことだと考えます。
Compass No7単元構成の回に、本務校である海陽の林校長先生より、「守破離」という言葉を思い浮かべましたとのコメントをいただきました。この「守破離」の言葉を借りるなら、Hi, friends!の実施例通りにステップ3を行うのは「守」のコミュニケーション活動といえるでしょう。
まずは、その通りにやってみることをお勧めします。そして、その先で「破」のコミュニケーション活動を目指したいものです。「離」のコミュニケーション活動は・・・、追いつきたいものです。
最後に、大変印象に残っている実践例の一つを紹介します。徳島県鳴門市の先生の実践（Hi, friends!1 L9）です。

「破」のコミュニケーション活動とは

「お世話になっている方のことを考えながら、スペシャル・ランチ作りをする。自分が食べたいものではなく、身近な誰かに喜んでもらえるようなランチを考える。そして、ゲストを招待し、その方のためのスペシャル・ランチ作りをする。好みを聞いたり、食文化の違いを考えたりしながら、実際に英語を使ってやり取りをする。最後に、自分たちが考えたランチをみんなの前で紹介する。」
どうでしょうか。店員と客に分かれてやり取りをしながらスペシャル・ランチを作るという部分では同じですが、この実践では、「誰かのために作る」という「相手意識」をより強調した展開になっていました。言葉を使う意味を児童に考えさせたいという指導者の明確な意図が読み取れます。実際の授業も素晴らしいものでした。